

特別企画

若い世代が活躍するクラブ

わくわくクラブおおやまざき ＜京都府乙訓郡大山崎町＞

持続可能な総合型クラブとなるためには、次世代を担う人材の発掘や育成を念頭に新しい人材を積極的に受け入れ、世代交代を図りながらクラブ運営に取り組むことが重要となります。

そこで、今回は、若い世代が活躍するクラブを紹介します。



1 クラブ概要

町教育委員会主導の下、平成17年8月に町体育協会・スポーツ推進委員協議会（当時体育指導委員協議会）・長寿会・スポーツ少年団指導者・小中学校PTA・社協等の担当者が集まり、2年間の研修や既に設立されている府内外クラブの視察等の活動準備期間を経て、19年2月26日「わくわくクラブおおやまざき」を設立しました。

「スポーツではじける笑顔 あしたの元気」をスローガンに多世代・多種目・多志向といった多様性をもって、地域住民同士のつながりを目指しています。また、会員の意見を充分に取り入れ、参加されている会員の皆様に満足していただける活動を模索しながら今年10年目を迎えることができました。

設立当初から町スポーツ振興の中心である、町体育館の事務所を拠点とし、町教育委員会生涯学習課の行政と共に、当クラブの運営や各種事業の推進を行い、町行事にも協力しながら活動を行っています。

現在、小学生から高齢者まで73名の会員が登録されていて、小学生中心のスポーツ教室（11種目）、大人のスポーツ教室（1種目）を年間通して開催。各種スポーツ教室の指導は、町スポーツ少年団・中学校の部活動（先生、中学生が指導）・町既存クラブにお願いしています。

また、毎月2回(8月は無し)町体育館と小学校体育館(2ヶ所交互)を借りて「サタデーナイト」と銘打って土曜日の夜に卓球・バスケットボール・バドミントン・ニュースポーツ等、地域住民を対象にしたスポーツ開放事業も開催しています。

上記活動と並行して設立準備時より続いている親子参加型のイベントもあります。人気のカヌー教室(京丹波市の和知川の川下り)、春ハイキング、秋バスツアー(28年度は宮津湾での地引網)、冬のスキー教室と毎年定番の事業も開催し、会員やイベントのみの参加者同士のつながりを目指し活動しています。

2

高齢化でスタッフ減少→高校・大学生に依頼 青年団体をクラブ下部組織に吸収

クラブ概要に記した様に、設立するにあたり各団体から協力スタッフが集められましたが、総合型クラブに対する意識の差もあり、設立準備時のスタッフも減少し、設立当初は40代半ばのスタッフ数名が中心となり活動を続けていました。しかし年数が経つにつれ、スタッフの高齢化、活動に伴う負担から仕事をもちながらの活動が難しくなり、スタッフの数が減少していきました。スタッフの減少はクラブを継続するにあたり致命的で、各協力団体にスタッフの要請を依頼したり、成人会員の方にもお願いするなどの努力を試みましたが、自分の時間を割いてまで協力してもらえるボランティアスタッフが見つかりませんでした。

スタッフを探すのであれば、これからの活動継続を見据え、この際、若者にお願いしてみようと思い、その当時高校生だった一番身近な私の息子(現在、当クラブの事務局長)に声をかけました。息子はその頃、高校生・大学生を中心に活動する青年リーダー会「ゆうやけ」というボランティア団体に所属。「ゆうやけ」は、大山崎町教育委員会が実施する青少年健全育成事業である小中学生対象の「ジュニア・リーダー養成講習会」をサポートしていました。なお、45年前に当クラブ会長が参加して設立した団体が「ゆうやけ」です。

それまでの青年リーダー会「ゆうやけ」での活動内容と、会員からの会費を元に運営をする総合型クラブの事業では内容が異なり、難しい選択であったとは思いますが、説得の末に主要事業を手伝ってもらえることとなりました。幸い「ゆうやけ」の同級生メンバー3人の協力も得られ事業継続につながりました。

ただ、正規のスタッフではないので先行きに不安を抱えたまま活動を行っていました。そのような状態が続く中、彼らも大学を卒業し、「ゆうやけ」も後輩に引き継いだ3年前の平成24年に突然、町教委が「ジュニア・リーダー養成講習会」を他の事業に転換。42年間続いた「ゆうやけ」の活動の場が失われることになりました。そのような時に「ジュニア・リーダー養成講習会」事業継続のため、当クラブも共に折衝にあたりましたが、希望はかないませんでした。

しかし、今まで培ってきた彼らの子どもたちへの指導技術、経験を生かせる場をつくろうと話し合い、「ゆうやけ」を当クラブの下部組織として吸収しました。さらに「ジュニア・リーダー養成講習会」も、当クラブの事業の一環として存続させることにしました。こうした経緯でクラブスタッフの若年化を図れたのですが、活動の中心である大半の大学生が来年就職するため、スタッフ確保という課題は今後も続きそうです。

29年8月現在、実質活動スタッフの内訳は社会人9名、主婦4名、大学生10名です。



カヌー教室



スキー教室

3 若手が豊富なアイデア提案→会員が1年でほぼ倍増

前述の「ゆうやけ」スタッフの参加により、「ジュニア・リーダー養成講習会」に参加していた小中学生達がクラブ会員として増加。その相乗効果として保護者の方々にもクラブに興味を持っていたいただき、子どもと一緒に各種事業に参加される様になりました。また、事業計画・内容に関しても若い世代からのアイデアが豊富に盛り込まれるようになり、中高年スタッフとの会議や話し合いも活発化する傾向となっています。世代間の考え方が違い、意見の衝突がたびたび起こりますが、お互いしっかりと話し合って計画を進めています。もっとも、最終的には若者の意見が通ることが多いのが実情です。

設立当時の会員数は200名近くでしたが、5年の間に約60名に減少。しかし、若いスタッフの参加により会員数がわずか1年で約110名に増員しました。若いスタッフの豊富(突拍子)なアイデアがクラブ活動に注入され参加者を楽しませているだけでなく、「自分たちも一緒になって楽しむ」というスタッフの行動力が参加者に受け入れられていると思います。

私を含め中高年スタッフはどうしても参加者をお客さんとして迎え入れる傾向があり、会員や参加者とのコミュニケーションという、クラブ本来のあるべき姿を見失いがちになっていたため、若いスタッフの意見を尊重して事業を遂行しております。一方で若手スタッフは、中高年スタッフの意見にも耳を傾け、より良い事業にしようと創意工夫してくれています。

クラブを持続させていくには、やはりスタッフの確保と育成が一つの重要なポイントでしょう。また、会員が運営に参画していくというクラブ本来の目的も大切だと思います。いくらスタッフの人数が多くても活動内容の主旨を理解していないスタッフでは成り立ちません。そうなると会員数も減少傾向に陥るでしょうし、スタッフが少数になってしまうと参加者の活動に目が行き届かない部分が生じてしまいます。当クラブは青年リーダー団体の協力が得られましたが、今後スタッフとして継続してもらえるかが課題として残ります。設立から10年が経ち、地域の方々にクラブの存在も知られるようになってはいますが、今まで以上に地域住民に密着していくような活動が必要と思われます。会員募集時には行事チラシを活用するなど常に頑張っておりますが、会員へのスタッフ参加呼びかけを継続することも大切と考えます。

今後の長期展望ですが、クラブ活動として取り入れた「ジュニア・リーダー養成講習会」参加の小中学生が青年リーダー会「ゆうやけ」に入り、当クラブのスタッフとして活躍してもらえれば最高です。その道筋が確立されるまでは、現在活動しているスタッフで頑張っていこうと思います。

（わくわくクラブおおやまざき 会長 吉田 修）



ジュニア・リーダー養成講習会

クラブ プロフィール

設立年月日 平成19年2月26日

所在地 京都府乙訓郡大山崎町地区

運 営 会員数73名（平成29年8月現在） 予算規模200万円（平成28年度）

有給職員 1名

特 徴 大山崎町は、京都府南西部に位置し大阪府に隣接、戦国時代に豊臣秀吉軍と明智光秀軍との天下分け目の合戦の地、天王山の麓にある南北に延びる約人口16,000人の町です。昔から京都～大阪の交通の要所で、東側に宇治川・木津川・桂川の三川合流（合流後淀川になる）があり、西側の天王山に挟まれた自然に恵まれた地域です。当クラブは、スポーツ・レクリエーション・文化等あらゆる活動を行いながら、青少年健全育成及び地域住民のコミュニケーションづくりを目指しています。

連絡先 〒618－0091 京都府乙訓郡大山崎町字円明寺小字一丁田50番地
大山崎町体育館内 わくわくクラブおおやまざき

電話番号 075－956－0567

Facebook 「わくわくクラブおおやまざき」

<https://ja-jp.facebook.com/Wakuwakukurabuoyamazaki/>